

# ボーリング柱状図

調査名 主要地方道 庄原作木線交通安全施設整備事業に伴う測量・地質調査・設計業務委託(交付金)

ボーリングNo. 5 2 3 2 2 6 6 6 6 6 6

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	Bor No.3	調査位置	広島県三次市君田町石原	北緯	34° 53' 02.8000"
発注機関	広島県北部建設事務所	調査期間	平成28年 9月 7日～平成28年 9月 9日	東経	132° 49' 52.3000"
調査業者名		主任技師		現代代理人	
孔口標高	GH 250.57m	角	180° 上 下 90° 0°	方	0°北 270°西 0°東 180°南
総掘進長	8.00m	度	0°	向	0°北 90°東 180°南 270°西
使用機	試錐機 (株)ワイビーエム製 YBM-05型	ハンマー	落下用具	ポンプ	(株)ワ化エム製 GP-5
エンジン	ヤンマーNFD-7	コアダ	鑑	定	者
ボ	ア	リ	ン	グ	責
責	任	者			

標尺	標高	深	柱状	岩種	色	硬軟	コアカ	割れ目	風化	変質	記	コア採取率 — (x) (%) 最大コア長 — (●) cm R Q D — [%]	岩級	孔内水位 /測定月日	標準貫入試験		原位置試験	室内試験	掘進状況	送水量	排水量			
															深	打撃回数 /貫入量								
1											地表面~GL-0.05m: アスファルト。 砂: 細砂~中砂主体。 礫: φ5~20mm程度の角レキ主体。 マトリックスは、細粒土で構成されている。 GL-3.0mより全漏水。 ※GL-0.8mまで試掘				0	24								
2															1.15	30								
3															1.48	10								
4															2.15	30								
5	246.07	4.50													2.49	22								
6															3.18	30								
7															3.45	43								
8															4.18	50								
9															4.48	4								
10															5.00	50								
11															6.00	4								
12															6.04	4								
13															7.00	貫入不能								

## < 凡例 >

### コア硬軟区分判定表

記号	硬軟区分
A	極硬、ハンマーで容易に割れない。
B	硬、ハンマーで金属音。
C	中硬、ハンマーで容易に割れる。
D	軟、ハンマーでポロポロに砕ける。
E	極軟、マサ状、粘土状。

### 風化区分表

記号	風化の程度
α	非常に新鮮である。
β	新鮮である。層理面、劈開に沿ってわずかに変色があり割れ易い。
γ	弱風化している。層理面、劈開に沿って風化している。
δ	風化している。岩芯まで風化している。ハンマーで簡単に崩せる。
ε	強風化している。褐色化し、指先で簡単に崩すことができる。

### 変質区分表

記号	変質区分	変質状況
1	非変質	肉眼的に変質鉱物が認められないもの。
2	弱変質	原岩組織を完全に残し、変質程度が低いもの。 または、非変質部の割合が肉眼で50%以上のもの。
3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判断できるが原岩組織を明らかに残し、原岩判定が容易なもの。 または、非変質部を残すものおよび細粒変質部。
4	強変質	構成鉱物、岩片等変質鉱物で完全に置換され、原岩組織を全くほとんど残さないもの。

### コア割れ目状態判定表

記号	割れ目状態区分
a	密着している。あるいは分離しているが割れ目沿いの風化・変質は認められない。
b	割れ目沿いの風化・変質は認められるが、岩片はほとんど風化・変質していない。
c	割れ目沿いの風化・変質は認められ軟質となっている。
d	割れ目として認識できない角礫状、砂状、粘土状コア。

### 備考

### コア形状区分判定表

記号	模式図	コア形状
1		長さが50cm以上の棒状コア。
2		長さが50~15cmの棒状コア。
3		長さが15~5cmの棒状~片状コア。
4		長さが5cm以下の棒状~片状コアでかつコアの外周の一部が認められるもの。
5		主として角礫状のもの。
6		主として砂状のもの。
7		主として粘土状のもの。
8		コアの採取が出来ないもの。スライムも含む。(記事欄に理由を書く)